

2017年度

事業報告

自 2017 年 4 月 1 日
至 2018 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本財団パラリンピックサポートセンター

目 次

I	法人の概況	
1.	設立年月日	1
2.	定款に定める目的	1
3.	定款に定める事業内容	1
4.	所在地	1
5.	役員に関する事項	1
6.	評議員に関する事項	2
II	役員会等実施状況	
1.	理事会	3
2.	評議員会	4
III	事業の実施状況	
【1】	パラリンピック競技団体の振興体制整備	6
1.	共同オフィスの提供	6
2.	パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の提供	6
3.	キャパシティブUILDINGの支援	6
4.	競技普及環境整備	7
【2】	アスリートが競技に集中するための環境整備	7
1.	パラアスリートの総合力向上	7
2.	パラスポーツ体育館の建設	7
【3】	パラリンピックの普及・啓発	8
1.	パラリンピック・ムーブメント推進に向けた広報活動	8
2.	「パラ駅伝 in TOKYO」の開催	10
3.	「パラフェス 2017」の開催	11
4.	パラスポーツ体験型イベントの実施	12
5.	パラリンピック教育の実施(あすチャレ！スクール)	13
6.	パラリンピック教育事業開発(I'mPOSSIBLE 日本版)	14
7.	法人向けパラスポーツ体験プログラムの実施(あすチャレ！運動 会)	14
【4】	パラリンピックボランティアの推進	16
1.	パラリンピックボランティアの育成推進	16
2.	障がい者コミュニケーションセミナーの実施(あすチャレ！ Academy)	16

【5】	パラリンピックの学術研究	17
	1. 調査研究活動	17
	2. 普及啓発活動	18
【6】	パラスポーツの国際支援	19
2017年度事業報告 附属明細書		20

2017年度 事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日

2015年 5月 15日

2. 定款に定める目的

当財団は、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営める共生社会の実現を目指し、パラリンピック大会を始めとする障がい者スポーツ環境の発展のための諸課題の把握やその解決に向けた支援を行うことにより、様々な関係者の連帯に基づく国民の心身の健全な発展と明るく豊かな国民生活の形成に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) パラリンピックの調査研究及び普及啓発
- (2) パラリンピック競技団体の振興体制整備
- (3) パラリンピック開催に向けたボランティアの育成
- (4) 障がい者スポーツ環境整備への支援
- (5) 障がい者スポーツ振興に関する国際支援
- (6) 障がい者の文化・芸術活動支援
- (7) その他当財団の目的を達成するために必要な事業

4. 所在地

東京都港区赤坂1丁目2-2 日本財団ビル4階

5. 役員に関する事項

役職名	氏名	略歴
会長	山脇 康	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会委員長
理事長	小倉 和夫	元・東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会 事務総長
常務理事	小澤 直	一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター 常務理事
監事	安樂 恒樹	税理士

6. 評議員に関する事項

氏名	現職	任期開始	任期満了
安倍 昭恵	公益財団法人社会貢献支援財団 会長	2015年5月15日	2019年の定時評議員会の終結時まで
鳥原 光憲	公益財団法人日本障がい者スポーツ 協会日本パラリンピック委員会 会長	〃	〃
竹田 恆和	公益財団法人日本オリンピック委員会 会長	〃	〃
河合 純一	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 会長	〃	〃
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長	〃	〃

II 役員会等実施状況

1. 理事会

①第18回理事会

ア. 開催日時：2017年5月25日(木) 午後2時

イ. 開催場所：日本財団ビル8階会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 2016年度事業報告並びに決算書類の承認について

第2号議案 定時評議員会開催について

第3号議案 体育館建設事業にかかる設計施工事業者の選定について

第4号議案 顧問の再任・選解任について

②第19回理事会

ア. 開催日時：2017年6月8日(木) 午前11時

イ. 開催場所：日本財団ビル4階会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 会長・理事長・常務理事の選定について

第2号議案 常務理事の報酬額の決定について

③第20回理事会

ア. 開催日時：2017年6月22日(木) 午後1時30分

イ. 開催場所：日本財団ビル8階会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 2017年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金
(追加申請)交付の決定について

第2号議案 顧問の選任・解嘱について

④第21回理事会

ア. 開催日時：2017年9月26日(火) 午前10時

イ. 開催場所：日本財団ビル4階会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 日本財団への助成金交付申請にかかる2018年度事業計画書
および予算の承認について

第2号議案 2017年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金
(追加申請)交付の決定について

第3号議案 職員就業規則の改訂について

第4号議案 慶弔規程および職員慶弔見舞金規程の制定について

第5号議案 顧問の選任・解嘱について

エ. 報告事項 :

報告事項1 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について

⑤第22回理事会

ア. 開催日時 : 2017年12月14日(木) 午後2時

イ. 開催場所 : 日本財団ビル4階会議室

ウ. 決議事項 :

第1号議案 2018年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の募集の承認について

第2号議案 顧問の選任について

⑥第23回理事会

ア. 開催日時 : 2018年1月23日(火) 書面決議

イ. 提案事項 : 決議の省略方式による議案の承認

ウ. 決議事項 :

第1号議案 吉田博監事辞任に伴う後任監事一名の選任について

⑦第24回理事会

ア. 開催日時 : 2018年2月27日(火) 午前9時30分

イ. 開催場所 : 日本財団ビル4階会議室

ウ. 決議事項 :

第1号議案 2018年度事業計画書、収支予算書及び資金調達及び設備投資の見込みについての承認について

第2号議案 2018年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金交付の決定について

エ. 報告事項 :

報告事項1 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について

2. 評議員会

①第5回評議員会

ア. 開催日時 : 2017年6月8日(木)

イ. 開催場所 : 日本財団ビル8階会議室

ウ. 決議事項 :

第1号議案 公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター
2016年度決算書類 承認の件

第2号議案 理事3名の選任の件

第3号議案 監事1名の選任の件

エ. 報告事項 :

報告事項1 公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター
2016年度事業報告の件

②第6回評議員会

ア. 開催日時 : 2018年2月5日(月) 書面決議

イ. 決議事項 :

第1号議案 吉田博監事辞任に伴う後任監事 安樂恒樹氏選任の件

Ⅲ 事業の実施状況

【1】パラリンピック競技団体の振興体制整備

パラリンピック競技団体の組織基盤強化を目的に、以下の事業を実施した。

1. 共同オフィスの提供

2015年11月より共同オフィスを開所し、執務環境の支援を行った。

・オフィス概要

住所:東京都港区赤坂1丁目2-2 日本財団ビル4階

面積:フロア約1,180㎡、オフィス約800㎡

・入居状況 ※2018年3月31日現在

パラリンピック競技団体(入居28団体)

日本パラリンピック委員会、日本パラリンピアンズ協会

・オフィス機能

各団体執務スペース、会議室(2室)、モニター、ミーティングテーブル、図書スペース、イベントステージ、複合機、ベンディングマシン、多目的トイレ(2室)他

2. パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の提供

組織基盤の強化を目的に事務局員雇用やガバナンス整備等に充当する助成金を提供した。

・対象期間:2017年4月1日～2018年3月31日

・対象団体:リオ・ピョンチャン・東京大会対象競技の競技団体(全31団体)

・対象事業及び上限額:

人的資源の確保に関する事業 A申請:月額35万円 B申請:月額20万円

その他組織運営・管理基盤及び活動の充実に関する事業 2,000万円

・助成実績:29団体/395,670,000円

3. キャパシティビルディングの支援

上記1. 2.と併せて、団体の自立化に向け以下の支援を行った。

・バックオフィスサポート:強化費の会計処理、国際業務、法務、税務

・学生インターン:大学スポーツ新聞部から競技団体へ広報インターンを派遣

(19競技団体に対し、10大学から140名の学生を派遣。計66記事掲載。)

・各種セミナーの開催:

2017年5月17日 第1回スキルアップセミナー「資金調達に向けて①」

2017年7月12日 第2回スキルアップセミナー「社団法人・NPO法人会計」

(協力:あずさ監査法人)

2017年7月19日 第3回スキルアップセミナー「資金調達に向けて②」

- 2017年 8月 23日 第4回スキルアップセミナー「スポンサー獲得プラン検討」
2017年 9月 13日 第5回スキルアップセミナー「セールスシート作成」
2017年 8月 23日 第6回スキルアップセミナー「シートブラッシュアップ」
(協力:アクセンチュア株式会社)
2017年 11月 8日 第7回スキルアップセミナー「大会広報のメディア対応」
(協力:電通 PR)
2017年 11月 24日 第8回スキルアップセミナー「スポンサーマッチングイベント」(協力:経済同友会)
2017年 11月 26日 第9回スキルアップセミナー「大会広報実地研修」
(協力:電通 PR、日本視覚障害者柔道連盟)
2018年 2月 21日 第10回スキルアップセミナー「ニュース制作現場を知る」
(協力:TBS)

4. 競技普及環境整備

パラスポーツ競技者の裾野拡大を目的に、向いている競技の診断とチーム検索機能を備えたWEBサイト「マイパラ！ Find My Parasport」を2017年4月にオープンした。2018年3月31日現在で競技数41、チーム数362が登録されており、パラスポーツの情報インフラとしての活用が進んでいる。同時に、地域におけるパラスポーツ普及の核となる拠点を全国に展開するべく、モデルとなり得る地域を調査し、長野県に設定した。将来的には、パラスポーツをやりたい人が身近に取り組める環境が広がるよう、情報インフラの「マイパラ！ Find My Parasport」と併せて事業展開を行う。

【2】アスリートが競技に集中するための環境整備

1. パラアスリートの総合力向上

アクセンチュア株式会社の協力を得て、パラアスリート向けのスピーチトレーニングプログラムを開発し、2017年10月より「パラスポーツメッセンジャー育成プログラム」として受講申込を開始した。第1期5名、第2期5名の受講生を受け付け、プロタイプを含め計20名が受講、うち4名がパラスポーツメッセンジャー認定となった。2018年度は、約30名の受講生を募集しさらなるパラスポーツメッセンジャーの育成と合わせ、認定者の活発な活動を展開するためWEBサイトの公開とパイロット展開を経て、上位のA級、S級認定の正式プログラムのオープンを目指す。

2. パラスポーツ体育館建設

パラスポーツの強化環境の整備と普及促進を目的に、船の科学館敷地内にパラスポーツ専用体育館の建設を開始した。2017年12月20日には同敷地内において起工式を執り

行い、2018年6月1日には竣工を迎える予定で工事が進んでいる。各競技の日本代表合宿やクラブチーム、またパラスポーツの普及に関するイベントなどのニーズが高く、多数の利用が見込まれている。

【3】パラリンピックの普及・啓発

1. パラリンピック・ムーブメント推進に向けた広報活動

東京2020パラリンピック競技大会の成功の一つとして、各競技会場を満席にすることが掲げられており、パラスポーツへの意識を変え、未だ低いパラリンピック及びパラスポーツへの興味関心の喚起を図るため、以下の施策を行った。

a. 公式WEBサイト(2018年2月大幅リニューアル)をはじめとするオンライン広報

(公式WEB) <https://www.parasapo.tokyo>

リニューアルのポイント:コンテンツの充実(パラスポーツに馴染みの無い層まで間口広げたコンテンツ用意)、サイト内検索機能追加、イベント・大会ページの機能向上

内容:[パラリンピック]パラリンピックとは、平昌冬季パラリンピック特集、[競技を知る]冬季6競技、夏季24競技、[選手を知る]世界のスーパーアスリート(11人)、日本の注目選手(85人)、[大会・イベント]、[パラサポとは]団体概要、[学ぶ・体験する]6事業、[楽しむ]3事業、[スペシャル]5事業

《2月 32万PV、3月 69万PV》2017年度全体では月間平均20万PV

Yahoo! JAPAN みんなの2020、スポナビ等とのメディア連携

(SNS) Facebook:<https://www.facebook.com/parasapo/> (4万いいね)

Twitter:<https://twitter.com/parasapo> (1.2万フォロワー)

内容:WEBサイトコンテンツシェア、イベント告知、平昌パラリンピック速報、事業関連告知、インターン記事シェアなど

b. 映像等の制作

・「i enjoy! ~楽しむ人は、強い。」のコンセプトに基づくプロモーションPVの制作

冬のスペシャル版としてアルペンスキー「The Change Maker」制作

(4.2万回再生+リアルイベント等で放映)

既に制作済みの水泳、車いすバスケットボール、ウィルチェアーラグビー、ゴールボール、陸上、ハイライトの映像を公式youtubeで紹介した他、各競技イベントや大会時に使用した。

c. メディアリレーション・競技団体広報

1) メディアリレーションを基盤としたパラサポ事業、パラスポーツの露出拡大

・メディアセンター運用(34社255名が登録)、地方局へのアプローチ

- ・記者会見、トークイベント等開催時(イベント)のメディア露出
- ・パラサポ主催イベント開催:海外選手を招いたトークイベント開催、アスリート及びタレントゲストによるトークイベント開催
- ・パラフェス(30 媒体 55 名)、パラ駅伝(90 媒体 183 名)時のメディア露出

2) 競技団体等主催記者会見支援

- ・メディアセンター登録媒体宛に会見の取材案内、リリース等を配信(54 配信)
- ・共同オフィス内ステージおよび日本財団ビル 1、2 階での記者会見実施の支援
- ・競技団体向け広報セミナー実施

d. 制作物

紙媒体:

- ・パラサポ事業およびパラスポーツの魅力を効果的に伝えるための子ども向けツール「パラサポ新聞(3 号発行、11 万部)」

あすチャレ! スクール、パラ駅伝で配布、朝日小学生新聞折込。

- ・イラストを中心とした「パラスポーツマガジン(Vol.2 発行、5 万部)」

あすチャレ! Academy、パラフェス、パラ駅伝他で配布。

※「パラサポ新聞」「パラスポーツマガジン」は、2018 年 3 月の平昌パラリンピック開催に合わせた 2020 東京大会スポンサー企業、自治体でのイベント時へも提供。

- ・営業活動用に「パラサポ事業紹介パンフレット」、イベント配布用に「SNS 拡散カード」を新規制作。

ノベルティ:パラサポピンバッジ、香取氏壁画ピンバッジ、ネールクリッパー

e. 既存マスメディア(パラスポーツタイトル)への後援・連携

- ・ゲスト選手調整や SNS、WEB サイトでの紹介、パラサポメンバー出演など
- ・フジテレビ PARA★DO(平昌メダリスト凱旋トーク:日本財団ビル1F で開催、来場者数 120 人)、文化放送「斉藤一美ニュースワイドSAKIDORI!」、朝日新聞平昌パラリンピックコンテンツ連携など
- ・大学スポーツ新聞(早稲田スポーツ、慶應スポーツ、筑波スポーツ)

f. その他啓発企画

写真家の蜷川実花氏が監修し、パラアスリート等の写真やインタビュー・対談記事を掲載するフリーグラフィックマガジン「GO Journal」創刊号を 11 月に発行(発行部数 20,000 部)。創刊にあわせ、銀座 SIX 蔦屋書店内の EVENT SPACE にてトークイベントを開催。

11 月 22 日 創刊記念トークイベント

登壇者:蜷川実花氏、辻沙絵選手、高橋和樹選手、

来賓:森喜朗東京 2020 組織委員会会長、鈴木俊一オリパラ大臣他

11月22日～27日(6日間) 写真展(来場者数20,100名)

なお、「GO Journal」創刊号へはキヤノン株式会社、大日本印刷株式会社より協賛を受け、創刊記念イベントは内閣官房「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査」試行プロジェクト採択事業として実施した。

2. 「パラ駅伝 in TOKYO」の開催

障がいのあるなしに関わらず、誰もがスポーツを楽しみ、お互いの理解を深めることを目的に、障がいランナーと健常ランナーをひとつのチームとした駅伝大会「パラ駅伝 in TOKYO 2018」を下記の通り開催した。会場には17,100名が来場し、参加した153名のランナーは終始大声援の中、全員が完走した。

本大会では、協賛企業を昨年より2社から大幅に増やし、ゴールドパートナー1社、オフィシャルパートナー5社の合計6社を獲得することができた。平昌パラリンピックに出場する選手へ届ける折鶴を観客に折ってもらう参加型企画は非常に好評で、平昌パラリンピックへの注目を高める一助となった。また、ハッシュタグ「#パラ駅伝2018」を用いて選手を応援するSNS投稿を行う企画、YouTuberのはじめしゃちょーの動画により、来場者以外にも競技場の熱気を伝えることができた。競技場横の中央広場では、協賛企業によるブース出展、出場チームの都県にゆかりのある食品などの販売を行うサイドイベント「オラが地元のチームを応援！パラ駅伝 in TOKYO 2018 ご当地物産祭」を行い、大変な賑わいを見せた。抽選を経て募集した一般ボランティア、協賛企業からのボランティア300名以上が参加し、学生ボランティアを合わせた総勢600名を超えるボランティアが、大会運営協力や選手への応援で大会を盛り上げた。

<開催概要>

名称:パラ駅伝 in TOKYO 2018

開催日:2018年3月4日(日)

会場:駒沢オリンピック公園陸上競技場及びジョギングコース

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:ゴールドパートナー/株式会社JTB

オフィシャルパートナー/アシックスジャパン株式会社、JXTG エネルギー株式会社、凸版印刷株式会社、日本航空株式会社、野村ホールディングス株式会社

後援:厚生労働省、スポーツ庁、東京都、世田谷区、日本障がい者スポーツ協会、東京都障害者スポーツ協会、東京都スポーツ文化事業団、東京都公園協会、日本パラ陸上競技連盟、日本知的障がい者陸上競技連盟、日本聴覚障害者陸上競技協会、日本ブラインドマラソン協会、日本車いすバスケットボール連盟、全国社会福祉協議会、日本身体障害者団体連合会、全日本ろうあ連盟、世田谷区スポーツ振興財団、笹川スポーツ財団、日本経済団体連合会、経済同友会、東京商工会議所、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会推進議員連盟、障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟

運営協力:東京陸上競技協会

駅伝距離:1区間(各区間共通 2.563km)×8区間 合計約 20.504km

走者:第1区:視覚障がいランナー及び伴走者、第2区:聴覚障がいランナー、第3区:車いすランナー(女)、第4区:健常ランナー(男)、第5区:知的障がいランナー、第6区:肢体不自由ランナー(立位)、第7区:健常ランナー(女)、第8区:車いすランナー(男)

参加チーム:14都県およびラオスより17チーム(1チーム9名(伴走者含)全153名)

岩手県/1チーム、宮城県/1チーム、福島県/1チーム、茨城県/1チーム、栃木県/1チーム、群馬県/1チーム、埼玉県/1チーム、千葉県/1チーム、東京都/2チーム、神奈川県/2チーム、新潟県/1チーム、山梨県/1チーム、長野県/1チーム、静岡県/1チーム、ラオス/1チーム

大会結果:

優勝:ベリーグッドとちぎ、準優勝:福島ピーチダイヤモンド、第3位:東京わくわくエンジョイ
応援ゲスト:稲垣吾郎、草薨剛、香取慎吾、木下航志、わたなべちひろ、チームよしもと(吉本興業所属タレント12名)、はじめしゃちょー、ご当地キャラクター

来場者数:17,100名

ボランティア:666名

3. 「パラフェス 2017」の開催

普段パラスポーツに関心の低い層やこれまでパラスポーツを見たことがないような人に対してもその魅力を知ってもらうことを目的に、著名ミュージシャン、パラアスリート、障がい者アーティストが共演するライブイベントを開催した。パラアスリートのトークショーやパフォーマンス、映像上映などを行い、パラスポーツの認知度を高めるとともに、アーティストとのコラボレーションにより、障がいの有無をこえた人間の可能性を共有し、インクルーシブな社会の実現に寄与することを目的とした。

今回の「パラフェス」は平昌パラリンピックを控え、冬季競技にフォーカスをした。パラアイスホッケーやパラアルペンスキーの選手に出演頂いたことで、競技の魅力を知り、その後テレビであるいは競技会場での観戦に繋がった様子が多くの参加者の SNS 等を通じて伺える。また若者に人気のあるアーティストをキャスティングしたことで、これまであまりリーチできていなかった10代～20代の若手層を引き込むことにも成功した。

<開催概要>

名称:パラフェス 2017

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

後援:スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟、NHK

日時:2017年11月15日(水) 19:00～21:30(18:00開場)

開催場所:両国国技館

出演者:【パラアスリート】

パラアイスホッケー:須藤悟選手／高橋和廣選手／安中幹雄選手

パラアルペンスキー:森井大輝選手／狩野亮選手／鈴木猛史選手

【アーティスト】

木下航志、Johnatha Bastos、HIFANA、WANIMA

【応援ゲスト】

中村壱太郎、斎藤工

入場料:2020 円

入場者数:約 4,300 人

4. パラスポーツ体験型イベントの実施

パラスポーツの普及・発展へ繋げることを目的に、パラスポーツ体験型イベントを7件実施。

① ツーリズム EXPO ジャパン 2017 (主催: 日本旅行業協会)

4日間で191,577人が来場した世界最大級の旅の祭典であるツーリズム EXPO ジャパン 2017にて、パラスポーツ体験型イベントを実施し、パラサポのブースには3日間でのべ3,300名が来場した。

<開催概要>

名称:i enjoy! パラスポーツパーク(889 m²)

日時:2017年9月22日(金)、23日(土)、24日(日)(3日間)

会場:東京ビッグサイト 東6ホール

内容:車いすバスケットボール、車いすカーリング、ボッチャ、ビームライフル、陸上競技用車いす(レーサー／ハンドバイク)、パラ・パワーリフティング、ゴールボールスマホアプリゲーム、スポーツ能力発見協会、マイパラ紹介、絵画作文コンテスト応募ブース、パラスポーツ動画放映

あすチャレ! Academy(22日のみ)

② 青森県三沢市/i enjoy! パラスポーツパーク

三沢市国際交流スポーツセンター(体育館)のこけら落としイベントとしてゲストに芸人の平野ノラさんを招き、トークショーも交えて実施。

のべ1,046名がパラスポーツを体験した。

<開催概要>

名称:i enjoy! パラスポーツパーク(メインアリーナ、サブアリーナ)

日時:2017年10月15日(日)

会場:三沢市国際交流スポーツセンター

内容:車いすバスケットボール、車いすカーリング、ボッチャ、ビームライフル、陸上競技用車

いす(レーサー)、パラ・パワーリフティング、スポーツ能力発見協会
ゲスト:平野ノラ

③スポーツ庁委託事業／パラスポーツスタジアム(共催:兵庫県明石市)

スポーツ庁からの委託事業としてゲストにパラリンピアン(別所キミエ選手(パラ卓球)、元プロ野球選手の赤星氏、芸人のあばれる君)を招き、トークショーも交えてパラスポーツ体験イベントを実施。約1,000名が来場した。

<開催概要>

名称:パラスポーツスタジアム(メインアリーナ、サブアリーナ)

日時:2018年3月11日(日)

会場:明石中央体育会館

内容:車いす卓球、車いすバスケットボール、ボッチャ、パラ陸上(レーサー)、パラ・パワーリフティング、ビームライフル、パラ陸上(盲人マラソン)、ブラインドサッカー、パラ柔道

ゲスト:別所キミエ(パラ卓球)、赤星憲広(元プロ野球選手)、あばれる君(芸人)他

■その他イベント

④2017年6月4日(日)

「オリンピック×パラリンピック×a GO GO」(主催:ブリヂストン)

⑤2017年6月18日(日)

「GOLD SPORT DAY 2017」(主催:オリンピック・パラリンピック組織委員会)

⑥2017年8月20日(日)

「BS日テレ『ストロングポイント』×超☆汐留パラダイス! -2017SUMMER-」

(主催:日本テレビ)

⑦2017年10月9日(月・祝)

「平成29年度『体育の日』中央記念事業 スポーツ祭り2017」

(主催:スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本レクリエーション協会、日本障がい者スポーツ協会、日本オリンピックズ協会、日本パラリンピアンズ協会、読売新聞社)

5. パラリンピック教育の実施(あすチャレ! スクール)

全国の小中高等学校の児童生徒を対象としたパラスポーツ体験型授業「あすチャレ! スクール」プログラムを39都道府県263校(小学校169校、中学校81校、高等学校10校、特別支援学校3校)42,741人に実施をした。当プログラムはパラアスリートとの交流やパラスポーツ体験を通じて、参加者に対して「人間の多様性」や「障がい」等に対する気づきや学びを提供することを目的とする。体験競技は車いすバスケットボールとゴールボールの2競技。

初開催となる自治体では、多くのメディアが取材に訪れテレビ、新聞等で広く報道された。
日本航空株式会社が協賛し実施した。

6. パラリンピック教育事業開発(I'mPOSSIBLE 日本版)

国際パラリンピック委員会・日本パラリンピック委員会と共同で開発した国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」国際版(【6】パラスポーツの国際支援事業を参照)をもとに、2020年東京パラリンピックを見据えて日本の教育現場に合うように小学校高学年向けに「I'mPOSSIBLE」日本版を作成した。2017年4月、第一弾の4単元を全国の小学校と特別支援学校約23,000校及び教育委員会に教材1セットを配布。第二弾として新たな小学生版5単元、及び小学生版第一弾を改訂した中高生版第一弾の開発を行った。並行して2017年度に配付した小学生版第一弾の4単元について、全国各地で教員研修を中心に普及に努めた。

7. 法人向けパラスポーツ体験プログラムの実施(あすチャレ！運動会)

企業や自治体、学校を対象とする、パラスポーツを導入したオリジナルの運動会プログラム「あすチャレ！運動会」を2017年4月に運用開始。

企業対抗運動会を6回、パラスポーツ体験会を9回実施し、のべ70法人/1,287名が参加した。

<事業概要>

名称:あすチャレ！運動会

協賛:株式会社ジェイティービー

運営事務局:株式会社JTBコミュニケーションデザイン

(2018年2月より「株式会社セレスポ」へ変更)

種目:ブラインド競技(あすチャレ！アイスブレイク、ゴールボール)、車いす競技(車いすポートボール、車いすリレー)、その他競技(ボッチャ、シッティングバレーボール)

内容:上記種目の3競技以上を入れることを条件に、パラスポーツ用具を無償提供し、運動会を実施した。

■企業対抗運動会(6回/1,032名)

①うめきた発見伝(主催:西尾レントオール)

<開催概要>

日時:2017年5月2日(火)、3日(水)(2日間)

参加者数:

5月2日 4チーム(166名)

(松原第五中学校の生徒)

5月3日 4チーム(90名)

(西尾レントオール、アシックス、日本生命、ヒト・コミュニケーションズ)

会場:うめきた2期区域用地B地区(特設会場)

②企業対抗あすチャレ！運動会 in TOKYO(主催:パラサポ)

<開催概要>

日時:2017年8月5日(土)

参加数:16社(271名)

(アシックスジャパン、オイシックスドット大地、近畿日本ツーリスト、JXTGエネルギー、ジェイティービー、全日本空輸、凸版印刷、西尾レントオール、公益財団法人日本財団、日本電信電話、日本航空、野村ホールディングス、パナソニック、ミライロ、よしもとクリエイティブエージェンシー、ワントゥーテンホールディングス)

会場:日本体育大学(スポーツ棟メインアリーナ他)

③パラスポーツ運動会(主催:経済同友会)

<開催概要>

日時:2017年11月13日(月)

参加数:16社(145名)

(三菱ケミカルホールディングス、住友林業、アクセンチュア、フューチャーアーキテクト、サントリーホールディングス、日本航空、オイシックスドット大地、あいおいニッセイ同和損害保険、フジタ、久慈設計、全日本空輸、みちのりホールディングス、ビズリーチ、アイスタイル、太陽工業、マーシュ ブローカー ジャパン)

会場:東洋大学(総合スポーツセンター)

④平成29年度スポーツ庁委託事業／パラスポーツ運動会 in 福岡(主催:パラサポ)

<開催概要>

日時:2018年2月24日(土)

参加数:8社(120名)

(JTB、大日本印刷、凸版印刷、トヨタ自動車九州、西尾レントオール、日本生命保険、福岡県、ミライロ)

会場:九州産業大学 体育館

⑤平成29年度スポーツ庁委託事業／パラスポーツ運動会 in 札幌(主催:パラサポ)

<開催概要>

日時:2018年3月21日(水・祝)

参加数:16社(240名)

(ANA セールス、クレオテック、クワザワ、さっぽろ健康スポーツ財団、札幌市、JTB 北海道、大日本印刷、デービスアクト、ナマール北海道、西尾レントオール、日本航空、ランチ・オフィス、北海道、北海道科学大学、北海道ハイテクノロジー専門学校、メディカルシステムネットワーク)

会場：札幌市北区体育館

■パラスポーツ体験会(9回/255名)

- ⑥2017年5月13日(土) グラクソスミスクライン新潟支店(20名)@鳥屋野体育館
- ⑦2017年7月1日(土) グラクソスミスクライン神戸支店(20名)@神戸市中央体育館
- ⑧2017年9月9日(土) NTTグループ(30名)@東洋大学
- ⑨2017年9月15日(金) SONYグループ(40名)@幸田TEC(SONY工場)
- ⑩2017年11月2日(木) グラクソスミスクライン本社(41名)@港区スポーツセンター
- ⑪2017年11月24日(金) クラーク国際記念高校(40名)@横浜YCAC
- ⑫2017年12月9日(土) 立教大学(11名)@立教大学
- ⑬2017年12月14日(木) グラクソスミスクライン横浜支店(10名)@青葉スポーツセンター
- ⑭2018年3月15日(木) 丸井グループ(43名)@中野体育館

【4】パラリンピックボランティアの推進

1. パラリンピックボランティアの育成推進

2016年12月に小澤直常務理事が東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下、組織委員会)の「東京2020大会に向けたボランティア戦略」の策定に向けたボランティアアドバイザー会議のアドバイザーに就任し、助言を行った結果、2017年6月に組織委員会と日本財団との間でボランティアの連携・協力に関する協定を締結するに至った。これにより、日本財団グループ全体で東京2020年大会のボランティア推進に取り組んでいくことが決まり、同年9月には日本財団ボランティアサポートセンター(以下、ボラサポ)が設立された。当センターはボラサポと連携し、パラリンピックボランティアの育成について、あすチャレ! Academy等の既存事業ノウハウを共有しながら推進していくこととなった。

2. 障がい者コミュニケーションセミナーの実施(あすチャレ! Academy)

本事業は18歳以上の方を対象とした、障がいのある当事者講師より、パラスポーツを切り口に障がい者への対応やコミュニケーション方法について学ぶ有償セミナーを展開。講話や体験、グループワークなどの学びの機会を通じて、共生社会に必要な障がい者と健常者のコミュニケーション方法を提供する。2016年11月よりスタートし、2017年度は新しいコンテンツとして、よりパラスポーツの魅力を伝え、講師のリアルを伝えるというコンテンツにて東京・大阪・福岡で一般開催を合計30回開催、企業・自治体等向けに団体開催として140回

開催し、6,962 名が受講。

<概要>

名称:あすチャレ！Academy

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:日本電気株式会社

内容:全 120 分(うち講義時間 100 分)のワークショッププログラム。講師による講話、障がい者へのサポート体験、受講者同士のグループワークを通じて、障がい者とのコミュニケーション方法やサポート方法を提供。

<実績>

講師育成:5 名(視覚障がい 2 名、聴覚障がい 1 名、低身長 1 名、肢体不自由 1 名)

育成中:4 名(視覚障がい 2 名、肢体不自由 2 名)

セミナー開催数:170 回 受講者数:6,962 名

(内訳)

一般(個人)開催:30 回 302 名(東京・大阪・福岡)

団体開催:140 回(企業、地方自治体、大学)/6,660 名

【5】パラリンピックの学術研究

1. 調査研究活動

a. 障がい者スポーツを通じた国際支援研究

ASEAN 諸国の障がい者スポーツの現況および 2020 年東京パラリンピック大会に向けた国際支援の可能性に関する調査研究を行った。

b. パラスポーツ競技団体調査

パラサポ入居団体を中心に、競技団体のホームページ調査を行った。

c. 国内外におけるパラリンピックに関する意識と関心に関する調査

2014 年度に行った調査の経年比較調査を行った。

d. パラリンピック放送に関する調査

NHK 放送文化研究所との共同研究により、平昌パラリンピックテレビ放送に関する調査を行った。

e. 平昌オリンピック・パラリンピック大会新聞報道調査

国内新聞 7 紙と朝鮮日報における新聞報道の論調および写真分析を行った。

f. 平昌パラリンピック大会観戦者の意識調査

現地にて大会観戦者にアンケート調査を行った。

g. デフリンピック関連調査研究

デフリンピックに関する基礎調査を行った。

h. スペシャルオリンピックス関連調査

スペシャルオリンピックスに関する基礎調査を行った。

- i. オリンピックとパラリンピックの「連携」に関する調査研究
早稲田大学との共同調査を行い、報告書を作成した。
 - j. 障害者関連団体調査
日本障害フォーラム(JDF)所属の13団体を対象に、組織及びその構成員と障がい者スポーツの関係について調査を行った。
 - k. パラリンピックと技術開発との関連性の研究
パラリンピック関連技術開発に携わっている企業および組織にアンケート調査を行った。
 - l. 東京オリンピック・パラリンピックに向けた式典のあり方に関わる調査
開閉会式における式典テーマ、テロ・安全対策、プロトコル等についての分析を行った。
2. 普及啓発活動
- a. 紀要を発行した。
 - ・第7号(2017年4月発行)
 - ・第8号(2018年2月発行)
 - ・第9号(2018年3月発行)
 - b. 大学との共催で国際シンポジウムを開催した。
 - ・日本福祉大学,日本財団パラリンピックサポートセンター共催シンポジウム ～パラリンピック共生社会～(約600名参加)
 - ・国際シンポジウム「共に生きる スポーツとアーツの可能性」(86名参加)
 - ・日本財団パラリンピックサポートセンター,上智大学ソフィアオリンピック・パラリンピックプロジェクト共催シンポジウム ～障がい者スポーツと国際協力の課題—東南アジア地域を中心に～(264名参加)
 - c. ワークショップを開催し、延べ247名が参加した。
 - ・第24回「2020 Paralympic Games: From Rio to Tokyo」(8月9日)
 - ・第25回「近年におけるアンチ・ドーピング活動について」(9月5日)
 - ・第26回「スポーツ界の転倒予防—フェアプレイ精神と共生の思想を守り育む—」(10月25日)
 - ・第27回「2020、2024、2028へと繋がる日本発メッセージ～技術とスポーツ創造を中心として～」(12月1日)
 - ・第28回「パラリンピックとアクセシビリティ」(2月23日)
 - d. パラリンピック座談会を開催し、記事は産経新聞に掲載された。
 - ・第8回「障がい者スポーツの多種目国際競技大会～デフリンピック、スペシャルオリンピックスと、パラリンピック」(5月31日)
 - ・第9回「ピョンチャン・パラリンピック大会を控えて～冬季競技の振興を考える」(7月27日)
 - ・第10回「スポーツ・インテグリティの意義、現状、課題～健全な障がい者スポーツの

- 普及・振興に向けて」(10月11日)
- ・第11回「パラリンピックと女性の参加」(2月6日)
- e. 内外情勢調査会と協力し地方講演会を開催した。
仙台と松山において内外情勢調査会と共催で企画実施した。
- f. 理事長が招待を受けて講演を行った。
- ・全国新聞東京営業部長会「パラリンピックとは何か」
 - ・どうしん☆スポーツサロン.BIZ「冬季オリンピック・パラリンピック招致を成功に導くためには」
- g. 理事長が論文を寄稿した。
- Kazuo Ogura. (2018). 'Visions on the Legacy of the Tokyo 2020 Paralympic Games.'
"The Palgrave Handbook of Paralympic Studies." pp. 579-601. Palgrave Macmillan:
London.

【6】パラスポーツの国際支援

国際パラリンピック委員会(IPC)、Agitos財団と協力して、IPC公認教材I'mPOSSIBLE国際版の制作のための支援を行った。2016年度に制作開発を着手した第一弾に続いて、2017年度に第2弾授業キットを開発し、国際版のホームページを開設した。また、英語だけでなく西語、露語、仏語、アルメニア語にも翻訳し、各国での活用に向けての普及に取り組んだ。

また、2020年東京パラリンピック大会の開催国として、特に障がい者スポーツ環境が未整備であるアジア諸国の障がい者スポーツ支援を、Agitos財団と連携しながら実施した。

また、IPC教育委員会へスタッフをオブザーバーとして派遣した。

2017年度事業報告 附属明細書

2017年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2018年5月

公益財団法人
日本財団パラリンピックサポートセンター